

「ブラク」差別を掘りおこし煽るNHK番組「バリバラ」

人権連北九州市協会員 A・S

NHKEテレ(旧教育テレビ)でバリバラという番組がある。障害者当事者の本音を健常者と共有し同情ではない垣根を取り払うというコンセプトの番組。タブー視された障害者の性の問題も扱い、「人権」とは何かを大上段に振りかぶらない「画期的番組」(だったが)。

6日と13日2回に分け「BLACK IN BURAKU～アフリカンアメリカン、被差別部落をゆく」が前後編で放映の予定。

6日の分を89歳の義母と見た。結婚差別を述べるスタジオパネリスト(部落ルーツの若者、と紹介されている)が「うちの家系に緑の血が流れた子は欲しくない、と言われた」と述べるシーン。

義母はテレビ画面に向かい「そんなこと言う方がおかしい、と言ってやらにや」。

結婚差別について「結婚差別の社会学」の著者・斎藤直子准教授は「子どもができたなら反対した親や親戚も変わる」と、20年後に「あの時はわかった」と詫びた話を引き合いに出したシーン。

義母は「反対された結婚には共通するけど、話は自分に関係ないところから出発している。この学者先生、おかしい」。

肩書が「浪花部落」という浅居明彦氏が「かつての部落を案内する」と言い、アフリカ系アメリカ人と同道し、昔の道幅狭く、家並も詰め合った写真を示し、現在を見るシーン。

義母「どこの地域でも道は狭かったし、戦後の名残で家並はギュウギュウ詰め状態よ。ここが部落やったっていうのをテレビに映していいの。言われたくない人もおるやろ。おかしいNHK。(北九州市)若松にも部落があったというけど朝鮮人部落が多くて、部落というと朝鮮人部落を思うけど。なんで今頃こんな番組なの」と義母。

「ことさら部落、と言って差別対象にしたのは明治政府。身分差別があるかのようにしておけば人々の不満のはけ口になる方策」と言うと「なんて。勝手に政府がやったのか。そんなら日本の部落とアメリカの差別は違うやろ」と義母。

「今、ここが部落のあったところ。私は部落民と言って得をするのはだれか、ということやね。そんなことを言うのはおかしい、道路や生活環境をよくしてと役所に言う運動をしてきた人もいる。部落差別をした、と解放同盟が認定して糾弾と言う名の暴力のし放題が50年前に北九州市でもあったのよ」。

「なーんそれ」と今度は私の方を向き睨んだ。会話はここまで。

◇

憲法に保障されている人権の視点が番組制作者に一番欠けている番組だった。